

1. (1)  $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{w} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}$  に対し,  $\mathbf{u} \times (\mathbf{v} \times \mathbf{w}), \mathbf{v} \times (\mathbf{w} \times \mathbf{u}), \mathbf{w} \times (\mathbf{u} \times \mathbf{v})$  を計算せよ.  
 (2) (1) の  $\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w}$  に対し  $(\mathbf{u} \times \mathbf{v}) \times \mathbf{w}$  と  $\mathbf{u} \times (\mathbf{v} \times \mathbf{w})$  を計算し, 一致しないことを確かめよ.
2. (線形代数の教科書を参照せよ)  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_k$  を  $\mathbb{R}^n$  のベクトルとする.  
 (1)  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_k$  が一次独立であることの定義を述べよ. また,  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_k$  が一次従属であることの定義を述べよ.  
 (2)  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_k$  が一次独立であるとき,  $i = 1, \dots, k$  に対し  $\mathbf{u}_i \neq \mathbf{0}$  であることを示せ.
3.  $\mathbf{a}, \mathbf{u}$  などは全て  $\mathbb{R}^3$  のベクトルとする. 以下を示せ.  
 (1)  $\mathbf{v} \times \mathbf{u} = -\mathbf{u} \times \mathbf{v}$ . また,  $\mathbf{u} \times \mathbf{v} = \mathbf{0} \iff \mathbf{u}$  と  $\mathbf{v}$  が一次従属  
 (2)  $\mathbf{u} \times (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = (\mathbf{w} \cdot \mathbf{u})\mathbf{v} - (\mathbf{u} \cdot \mathbf{v})\mathbf{w}$   
 (3)  $\mathbf{u} \times (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) + \mathbf{v} \times (\mathbf{w} \times \mathbf{u}) + \mathbf{w} \times (\mathbf{u} \times \mathbf{v}) = \mathbf{0}$  (ヒント: (2) を使う)  
 (4)  $(\mathbf{u} \times \mathbf{v}) \cdot \mathbf{w} = (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) \cdot \mathbf{u} = (\mathbf{w} \times \mathbf{u}) \cdot \mathbf{v}$  (ヒント: 4/7 の講義の補題 4 を使う)  
 (5)  $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{c} \times \mathbf{d}) = (\mathbf{b} \times (\mathbf{c} \times \mathbf{d})) \cdot \mathbf{a}$  (ヒント: (4) を使う)  
 (6)  $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{c} \times \mathbf{d}) = (\mathbf{a} \cdot \mathbf{c})(\mathbf{b} \cdot \mathbf{d}) - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{d})(\mathbf{b} \cdot \mathbf{c})$  (ヒント: (2), (5) を使う)  
 (7)  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \neq \mathbf{0}$  とし,  $\mathbf{u}$  と  $\mathbf{v}$  のなす角を  $\theta$  とするとき,  $|\mathbf{u} \times \mathbf{v}| = |\mathbf{u}||\mathbf{v}|\sin\theta$  (ヒント: (6) を使う)
4.  $\mathbb{R}^2$  の一次独立なベクトル  $\mathbf{u} = \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$  を横に並べて得られる  $2 \times 2$  行列を  $A := \begin{pmatrix} \mathbf{u} & \mathbf{v} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_1 & v_1 \\ u_2 & v_2 \end{pmatrix}$  とおく.  
 $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  を二辺とする平行四辺形の面積は  $|\det A|$  に等しいことを示せ.  $\det A > 0$  になるときと  $\det A < 0$  になるときの違いは何か?
5.  $\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w} \in \mathbb{R}^n$  に対し, 三角不等式

$$|\mathbf{u} - \mathbf{w}| \leq |\mathbf{u} - \mathbf{v}| + |\mathbf{v} - \mathbf{w}|$$

を証明せよ. (ヒント: Cauchy-Schwarz の不等式より  $(\mathbf{u} - \mathbf{v}) \cdot (\mathbf{v} - \mathbf{w}) \leq |\mathbf{u} - \mathbf{v}||\mathbf{v} - \mathbf{w}|$  であることを使う)

6.  $\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w} \in \mathbb{R}^3$  がこの順で右手系をなすとは,  $\det \begin{pmatrix} \mathbf{u} & \mathbf{v} & \mathbf{w} \end{pmatrix} > 0$  をみたすことと定義される.  
 (1)  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3 \in \mathbb{R}^3$  を標準基底とする.  $(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3)$  はこの順で右手系だが,  $(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_3, \mathbf{e}_2)$  はそうではないことを示せ.  
 (2)  $\mathbf{u} = \mathbf{e}_1 + \mathbf{e}_2, \mathbf{v} = -\mathbf{e}_1 + 2\mathbf{e}_2 + \mathbf{e}_3, \mathbf{w} = -\mathbf{e}_1 - \mathbf{e}_2 + 3\mathbf{e}_3$  とする.  $(\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w})$  はこの順で右手系をなすことを示せ. この  $\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w}$  を図示し, 教科書の図 1.4 と見比べよ.

(提出の必要はありません)

補足. 4/7 の講義では, ベクトルを  $\mathbf{0} \in \mathbb{R}^n$  から延びる矢印のように捉えました. 今後の講義では,  $\mathbf{0}$  以外の点を始点と捉えたほうがよいこともあります (平行移動してもベクトルは同じとみなす, ということは高校でもやったと思います). また  $\mathbf{0}$  から延びる矢印の終点, 要するに  $\mathbb{R}^n$  の点のこともベクトルで表したりします. 数学的にはどれも同じベクトルですが, 気分が違うわけです. その時々々のベクトルが何を表すか見極めるには, 深谷先生の教科書がやっているように, 物理的 (力学的) な視点が役立ちます.

同じものを表す記号が複数ある, というのはよくあることなので注意してください. この講義では, 行列  $A$  の行列式は  $\det A$  で, 転置行列は  $A^t$  で, ベクトルの内積は  $\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}$  で表します. 線形代数の講義ではそれぞれ  $|A|, A^T, \langle \mathbf{u}, \mathbf{v} \rangle$  などで (あるいは, これら以外で) 表したかもしれません. また教科書ではベクトルの長さを  $\|\mathbf{u}\|$  と表していますが, この講義では  $|\mathbf{u}|$  と書いています. 講義中に現れた記号は断りなく使って構いませんが, 他の記号も, それは何を表すかが明確であれば, 使っても構いません. ただし, 意味が通らない書き方はダメです. 正しい意思疎通のためには, 一般的な言い回しを使うべきです. 過去の経験上, 内積を “ $\mathbf{uv}$ ” のように書いてしまう人が非常に多いのですが, これは意味が通りません. 過去もそうだったのですが, 今回もかなりしつこく減点しますから注意してください.

幾何入門 レポート問題 1 (2017 年 4 月 7 日)

担当：境 圭一

4/7 の講義で省略した補題 5 (3) の証明を完成させよ。つまり、以下を示せ：

$\mathbf{u}, \mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$  に対し  $\det(\mathbf{u} \ \mathbf{v} \ \mathbf{u} \times \mathbf{v}) = |\mathbf{u} \times \mathbf{v}|^2$ 。また  $\mathbf{u}, \mathbf{v}$  が一次独立であるとき、 $(\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{u} \times \mathbf{v})$  は右手系をなす。  
(ヒント：4/7 の講義の補題 4 と、演習問題 3. (1) を使う)

(4/14 の 3 限開始時までに提出してください)

[http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17\\_geometry/17\\_geometry.html](http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/17_geometry/17_geometry.html)